

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインとその中の漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

脳卒中治療ガイドライン 2021

日本脳卒中学会 脳卒中ガイドライン委員会 (委員長: 宮本亨 京都大学大学院医学研究科脳神経外科教授)

協和企画、2021年7月15日 発行

Strength of Evidence

高: 良質な複数 RCT による一貫したエビデンス、もしくは観察研究などによる圧倒的なエビデンスがある

中: 重要な limitation のある複数 RCT によるエビデンス、もしくは観察研究などによる非常に強いエビデンスがある

低: 観察研究、体系化されていない臨床経験、もしくは重大な欠陥を持つ複数 RCT によるエビデンス

Strength of Recommendation

A: 強い推奨

B: 中等度の推奨

C: 弱い推奨

D: 利益がない

E: 有害

■1 抑肝散

疾患:

血管性認知症、血管性認知障害

引用:

1) Iwasaki K, Satoh-Nakagawa T, Maruyama M, et al. A randomized, observer-blind, controlled trial of the traditional Chinese medicine Yi-Gan San for improvement of behavioral and psychological symptoms and activities of daily living in dementia patients. *Journal of Clinical Psychiatry* 2005; 66: 248-52.

[EKAT 構造化抄録 \[PDF\]](#)

2) Nagata K, Yokoyama E, Yamazaki T, et al. Effects of yokukansan on behavioral and psychological symptoms of vascular dementia: an open-label trial. *Phytomedicine* 2012; 19: 524-8.

有効性に関する記載ないしその要約:

血管性認知症、血管性認知障害の項のエビデンスの中に、下記の記載がある。

『抑肝散は小数例の臨床試験で行動心理症状の改善に有効であった。』